

## 北大病院のファミリーハウスの利用料金の見直しについて

《行政苦情救済推進会議の検討結果を踏まえたあっせん》

### 【申出要旨】

北海道大学病院には、遠隔地から長期入院する患者の家族が付添い等のために宿泊する施設としてファミリーハウスがあるが、利用料金が1泊2,000円かかる。他県の公立病院等では1泊1,000円程度のところもあるので、利用料金をもっと安くしてもらえないか。

### ファミリーハウスとは

遠隔地から長期入院している子供等の家族が低廉な利用料金で長期滞在できる宿泊施設。  
こども病院等が施設を整備し患者家族に提供しているものやボランティア団体等が中心となり民間のアパートなどの空き部屋を安く貸す大家等を登録し、患者家族に提供しているものがある。

### 北大病院ファミリーハウスの概要

(株)北海道電力の創立50周年記念事業の一環として同病院の敷地内に建設・寄贈され、平成14年4月から利用開始

構造：軽量鉄骨2階建て オール電化仕様  
延床面積：530㎡  
宿泊室：1K 8室 (洋室6室、和室2室、各10畳)  
個室設備：テレビ、エアコン、暖房機、冷蔵庫、IH調理器、電子レンジ、電気ポット等  
共用設備：控室、談話室、事務室、洗面洗濯室、プレイコーナー等

## 【調査結果】

当局において、北大病院におけるファミリーハウスの利用及び経費の状況を調査

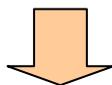
利用料金の算出の考え方として、個室に係る経費は宿泊者に対する利用料金として徴収し、談話室等の共用部分に係る経費は北大病院が負担することとしているが、当該共用部分に係る経費の一部が利用料金の算出要素に含まれている。

国庫補助事業で整備されたファミリーハウスは、遠隔地から入院した児童及びその家族の経済的・精神的負担の軽減に資することを目的とし、費用を徴収する場合は光熱水費等の実費程度とすることとされているが、同じような趣旨で設けられている北大病院のファミリーハウスの場合は、実費とはみられない国有財産使用料を算出要素に含めて利用料金を設定している。

経費の状況を月別にみると、4月～10月は、冬期間(11月～3月)に比べて暖房に要する光熱水費がかからないことから、夏期間の利用料金の軽減を図る余地がある。



行政苦情救済推進会議(座長:山畠正男北海道大学名誉教授)に諮り、その意見を踏まえて、平成17年2月15日、北海道大学に対してあっせん



## 【あっせん内容】

ファミリーハウスの利用料金について、施設の設置目的を踏まえ、利用者の負担を軽減する方向で利用料金の設定を見直す必要がある